

キューバの葉巻（2）：ダビドフの謎

浦野保範 フラメンコ・キューバ文化研究家

キューバの葉巻については、自分自身の思い出とともに、前回、ダビドフに簡単に触れ、「ダビドフの謎」については別の機会に紹介したいと約束した。それから、早くも2年が経過した。今回は世界の葉巻のトップブランド、ダビドフについて、キューバ撤退の諸説に触れてみたい。



プーロ・アバーノ(ハバナ巻)の30数種以上の有名銘柄の中で、



品質と気品と値段において、コイーバに勝るとも劣らない名品は、ダビドフであろう。この最高級の葉巻、ダビドフは、1969年からキューバで製造、販売されるが、1988年をもって最後のものとなり、現在ではキューバでは製造されていない。しかも、ダビドフの葉巻工場は、コイーバの葉巻工場と同じ「エル・ラギート」

工場であった*。

*なお、先日、Wowow テレビで放映されたドキュメンタリー、「英雄たちを虜にしたキューバ葉巻」（日本電波ニュース制作）で、コイーバの製造工場（エル・ラギート）にテレビ・スタッフが向かう途中、向かう進路を撮影してはいけないと、キューバ側担当者が厳格に注意する場面があった。「秘密の場所にある極秘の工場を初めて案内する」という趣向である。場面を劇的に盛り上げるには、いいかもしれないが、しかし、コイーバがエル・ラギートで製造されていることは、周知の事実であるし、その場所も、工場内も「第12回ハバナ巻フェスティバル」で2010年2月、キューバは、外国人記者団をツアーとして案内し、内部の撮影許可している。それは、下記の youtube でもみられる。

http://www.youtube.com/watch?v=ibA9n3Bq_qk&feature=related



ハバナ市、西部にあるエル・ラギート工場

また、場所も、知らない人は、グーグルのマップサービスで、El Laguito, Playa La

Habana と入れれば、直ちに詳細なハバナ市の西部の地図と道順と、工場が現れる。そのような時代ではないのである。真面目なドキュメンタリーであるだけに、不要な仕掛けと思われる。

「ダビドフ」というブランドは、創業者のジノ・ダビドフ（1906-1994）の名を冠したものである。彼は、1906年3月11日に帝政ロシア時代のキエフで誕生した。ダビドフの名前は、葉巻、紙巻煙草だけでなく、パイプ煙草、各種喫煙具、香水、ネクタイ等の紳士用装身具の高級ブランドにもなっている。英国の高級ブランド、アルフレッド・ダンヒルも葉巻をはじめ各種紳士用品に、その名が付けられているのと同様である。



ジノ・ダビドフが 5 歳の時、家族はロシアからスイスのジュネーブに移り住み、父親はフィロソフ広場に煙草店を開店した。ジノ・ダビドフは、大学生生活をスタートさせる前に海外旅行として、最初にアルゼンチンに向かった。1925年、19歳を迎えたジノは、アルゼンチンのタバコ栽培農場で仕事に就き、以後ブラジル、キューバでもタバコ栽培農場で合計 5 年の経験を積んでスイスに戻った。ダビドフは、中南米での経験と知識と人脈を活かし、最高品質のキューバ産葉巻を取扱い、多くの葉巻愛好家の信頼を獲得した。

第二次世界大戦中、ダビドフは、キューバ本国以外では最大のキューバ産葉巻の取扱いを行なうようになり、ドイツ軍のフランス侵攻前まではフランスを活動の拠点とした。終戦後キューバは、当時ヨーロッパで最も販売されていたドイツ、スイス、デンマークの葉巻をその座から外すことをダビドフに提案した。

ダビドフは最良のフランス・ワイン、例えばグラン・クリュなどのような名前を葉巻に付けるアイデアを持っていた。その後、キューバ産葉巻の取扱い責任者から、ダビドフ No.1、ダビドフ No.2そしてアンバサダトリスの名前を付けたオリジナルの葉巻生産の可能性が提案された。1967年、ダビドフは、キューバのタバコ輸出公団「クーバ・タバコ」と契約を結び、1969年からキューバでダビドフ・ブランド葉巻を製造・販売し始めた。



筆者も 1980年9月のキューバ訪問以降、訪問時には必ず 2 箱ずつ買い求めていたが、その中にはダビドフの Ambassadrice（アンバサドリ）も含まれていた。これは、まだ 10 本ボックスと共に筆者の手元にあるので、写真を掲載する。上の写真

キューバ産でありながら新興の海外ブランド品であったダビドフは、極めて人気のある葉巻であったが、1988年、キューバでの製造が中止され、1990年以降はドミニカ共和国で生産が行われるようになり、キューバ産ダビドフは過去のものとなった。生産拠点移行の原因について都内の何店かの葉巻販売店でたずねてみたところ、キューバ産葉タバコの品質管理の低下とする説が大勢を占めたが、海外ブランドのキューバ産葉巻の輸出制限をキューバ政府が設けたのが一因とする意見もあった。ダビドフ側でも、品質の下落を撤退の理由にあげているが、キューバ側は、品質の下落はなかったと否定している。

ダビドフ・インターナショナル社のレイモンド・シューラー副社長のベルリンでの発言と何点かの興味深い記事が、2002年11月26日に配信されているがその概要は以下の通りである。



- 1) キューバでのダビドフ・ブランドの葉巻の生産及び販売は、今後も行なわないとレイモンド・シューラー副社長は確約した。これは、キューバ政府の公式発表、「キューバにおけるダビドフ・ブランドの葉巻の生産と販売を禁止する」との発言を受けてのものである。
- 2) 1991年以降に販売されているダビドフの葉巻は、1988年までのキューバ産とは全く異なるものである、とダビドフ・グルメ・フェスティバルの会場でレイモンド・シューラー副社長は、AFPとの取材で発言した。
- 3) キューバ側は、11年前にダビドフ社とキューバ国営輸出公団のクーバ・タバコとの間で、キューバでの生産と販売を停止させることに合意した。1年の係争の後、1991年12月20日にスイスジュネーブの法廷で、この合意は、批准された。その合意には、キューバ産の葉タバコで生産された何種類ものダビドフも含まれている。
- 4) 最近では、葉巻の偽物製造者とその販売者に対して、キューバ政府が、注意を喚起している。外国人旅行者に対して、設定価格より安く販売している実態が見られるためである。

キューバからドミニカ共和国に生産拠点が移った原因は、何点かあると筆者は想像する。



キューバ国内では、物不足を原因とした生産現場での製品或いは材料の横流しが、社会問題としてクローズアップされてきた時期でもあった。葉巻も例外ではなく、キューバの最高級銘柄コイーバを格安で販売すると路上で呼び掛けられたと、知人から聞いたことがある。偽物を高値で売りつけるのか、あるいは本物の横流し品を格安で外貨に変えるのが目的か、その判断はつかないが、高級ブランドの品質を維持するための努力がもし足元から揺らぐようでは、信用失墜にもなりかねない。

日本国内でもキューバ産人気銘柄の中には、需要に供給数量が追いつかず、余りにも品薄の為、販売店ですらその真贋を見抜けない場合があり、偽物が販売されたこともあるとのことである。需要がなければ偽物は存在しないが極めて残念な事態である。

葉巻は嗜好品であり、個人の好みによってその評価が分かるとはいえ、ランキングをもし付けるとすれば、コイーバとダビドフが東西の両横綱であることは疑う余地がない。



コイーバは、収穫された葉タバコの品質によって生産量が調整されており、品質の維持には細心の注意が払われている。ダビドフは、葉巻のロールスロイスとも呼ばれている究極のブランドで、味・香・姿と葉巻に求められる全てが最高のレベルに達している。これは、コイーバに対しても言えることである。

葉巻は、太さと長さによって、世界共通の呼び名がついている。サイズによって味も変わるが、値段も当然変わる。また喫煙時間にもかなりの違いが出る。代表的な何種類かを以下に示す。なお、サイズと喫煙タイムは、平均的なものである。前にも書いたが、葉巻は、ゆったりとした気分で、くつろいで吸うものであり、せかせかと吸うものではない。一つの文化なのである。また、1度火をつけると、最後まで吸いきらなければならないものでもない。無理をするとぶっ倒れますよ。

- ① ダブル・コロナ：直径 19.45mm x 長さ 194mm 喫煙タイム 120 分
- ② チャーチル：直径 18.65mm x 長さ 178mm 喫煙タイム 90 分
- ③ ロンズデール：直径 16.67mm x 長さ 165mm 喫煙タイム 80 分
- ④ グラン・コロナ：直径 18.26mm x 長さ 143mm 喫煙タイム 60 分
- ⑤ コロナ：直径 16.67mm x 長さ 142mm 喫煙タイム 50 分
- ⑥ ペティ・コロナ：直径 16.67mm x 長さ 129mm 喫煙タイム 40 分
- ⑦ ロブスト：直径 19.84mm x 長さ 124mm 喫煙タイム 50 分
- ⑧ パナテラ：直径 10.32mm x 長さ 115mm 喫煙タイム 25 分

ジュラルド・ペール・エ・フィルスが 1997 年に著した『ハバナ葉巻』には、130 種類以上のハバナ・シガーが原寸大のフルカラーで紹介されている。葉巻の栽培方法なども豊富なカラー写真で説明されており、楽しい本である。この中には、既にキューバでは生産していないとの注釈付で、ダビドフの中から代表的な 5 種類が紹介されている。この中で、ダビドフのドン・ペリニオン・チャーチル(直径 19mm x 長さ 177mm)が、最高ランクに位置付されている。現在日本では、ドン・ペリ



ニョンの名称は付いていないが、ほぼ同一サイズの葉巻が、アニベルサリオ No.2 として販売されている。価格は 1 本¥5,600.-と極めて高額である。現在日本では、33 種類のダビドフ・プレミアム・シガーを購入することができる。

ラッパー（葉巻の表面に使用されている一番大事な葉）で、ダビドフの厳格な品質管理から外れた、ワンランク下のものを使用したプライベート・ストックも、販売されている。価格はサイズによるが、一本¥800.-~¥1,100.-と極めて安価に押えられている。手軽に本格シガーを味わうには、最適かもしれない。

コイーバも有名なだけに、価格も高い。チャーチルに相当するコイーバ・エスプレンド



ードスは 1 本¥4,500.-。筆者がキューバで最初に吸ってその後何度も購入したコロナス・エスペシャルは 1 本¥2,900.-。ランセーロは 1 本¥3,400.-。パナテラでさえ 1 本¥1,600.-と高い。手元にパナテラの 25 本入りと 50 本入りのボックスが残っているが、贈りものとして、いろいろな友人にさ

しあげた。今から思えば、何気なく買った最高級の葉巻だったが、価値を理解していたであろうか。これらは、一般には、もう日本国内では高くて手が出ない高値の存在になっている。

ジノ・ダビドフがフランス・ボルドー産の高級ワインをイメージして作り上げた葉巻は、世界中の葉巻愛好家の憧れの品になっている。またジノ・ダビドフの存在そのものが、キューバ産葉巻の地位を世界の最高級品に位置づけたと言っても過言ではない。ジノ・ダビドフは 1970 年にスイスの代表的なタバコ会社のエッティンガー商會にブランドを売却し、1994 年に 88 歳の生涯を閉じた。



最後になるが、葉巻の吸い口近くに巻かれているリングについて前回紹介したが、何枚かを額縁に入れたものは、インテリアにもなり、筆者の自宅に掛けてある。その写真をご覧ください。

(2011 年 5 月 5 日 浦野保範)